

# 坊っちゃん 夏目漱石



新潮文庫

親譲りの無鉄砲おやゆずで小供こどもの時から損ばかりしている。小学校に居る時分学校の二階から飛び降りて一週間程腰ほこしを抜ぬかした事がある。なぜそんな無闇むやみをしたと聞く人があるかも知れぬ。別段深い理由でもない。新築の二階から首を出していたら、同級生の一人が冗談じょうだんに、いくら威張いばつても、そこから飛び降りる事は出来まい。弱虫やーい。と囃はやしたからである。小使に負ぶさつて帰つて来た時、おやじが大きな眼をして二階位から飛び降りて腰を抜かす奴やつがあるかと云つたから、この次は抜かさずに飛んで見せますと答えた。

親類のものから西洋製のナイフを貰もらつて奇麗きれいな刃を日に翳かざして、友達に見せていたら、一人が光る事は光るが切れそうもないと云つた。切れぬ事があるか、何でも切つて見せると受け合つた。そんなら君の指を切つてみると注文したから、何だ指位この通りだと右の手の親指の甲こうをはすに切り込んだ。幸さいわいナイフが小さいのと、親